

ボンネットの上まで水で、車はアウト

～大雨で排水溝にゴミ詰まり～

(宇治市 70代 男性 地区役員)

うちの地域は府道より東側の水がみな集約されて流れて来るところですが、排水溝は50年前と数も形もほとんど変わっていないんです。で、なんとかその府道より向こうの水を一部よその用水路へ流していただけないかと市へ再三要望していたところでした。

あの日、朝の6時前でしたか、雷がドンドンと鳴る間ずっと激しい雨が降り、家の前の道路が冠水し始めましたので、私は堤防へ上がって川沿いにようすを見て回りました。

私の家は少し高台なので何とか前の道路だけですみましたけど、みなさんのところは戸を開けたとたんに水が入ってきちゃうから、外に出られる状態じゃないんです。戸を開けて水が入ってきて、玄関の靴を流されてしまった家もありました。

周辺の排水溝には、プランターやら自転車やらものすごい量のゴミがつまっていましたし、ボンネットの上近くまで水が上がった自動車は、みなアウトですわ。

思わぬ水が出て大変なことになりましたが、水が引くのは早かったです。1時間もついてなくて、スーッと引いて行きました。



地元の人間の話をよく聞いて！

徳島市 60代 男性 消防団員

よくテレビでは、冠水している場所でもかまわず車を走らせる光景が映っているけれど、水の中を走ればブレーキが効きませんし、しまいには車がエンストを起こしてしまうんですよ。

あと、僕らが「この道は通行止めですよ」と言っても、「大丈夫。だれにも迷惑をかけないから」と言う。そうすると、我々には止められませんのでね。そのまま進んで行って、そのうち車はストップして、いろんな人に迷惑をかけることになります。

状況がわかっている地元の我々の言うことを聞かなければ、命を落とす確率も高くなりますよね。

やっぱり、外からきた人は、被災地に入ったときには、地元の人のお話をよく聞いてほしい、協調性をもって行動してほしい、そう思います。



みんなで守る地域の高齢者

～民生委員さんと一緒に「見守り隊」～

（延岡市 50代 女性）

被災当時、ひとり暮らしのおとしよりは15人でしたが、現在は、18人に増えています。

私たちの地域もやっぱり高齢化が進んでいるんだなと思いますね。

で、「何かのときは、声をかけてください」ということで、近所に住む人が、2～3人1組で「見守り隊」になって、それぞれ決められた高齢者のケアをしています。

おたがいに近所に住んでいますから、何かあったらすぐ駆けつけることもできるし、「近ごろ顔を見ないけど、病気かな」と思えば、すぐにようすを見にいくこともできるんですよ。

あらかじめ分担表ができていますから、みんなの責任感もでてくるし、おとしやりの方も「見守られている」という安心感があると思います。

こういう取組を引っ張る立場として、民生委員*の私もやりがいを感じています。あんまり押しかけて、おとしなりに嫌がられるところもちよっとあったりするので、そこは気をつけなくちゃと思っています。

*民生委員とは、社会奉仕の精神を持ち、常に住民の立場になって相談に応じるなど、社会福祉の増進に努めることを任務として、市町村の区域に配置されている民間の人です。また、民生委員は児童委員を兼ねています。



つくりつけの家具で救われる

倒れるかと思った高層マンション

福岡市 50代 男性

私の家は、9階建のマンションの最上階です。地震が起きた時は、まず体験したことがない揺れでしたので、「あ、このマンション倒れるな」とふと思いました。それから、子供が家に居たので、無我夢中で子供部屋を見に行きました。

うちは幸運にも、4、5年前にリフォームをして、家具を全部「つくりつけ」にしていたので、タンスが倒れることもありませんでした。隣の家に行ってみると、棚の上のテレビは落ち、大きな家具は倒れ、金魚鉢も見事に割れていました。

家具を「つくりつけ」にしたのは、地震を意識していたわけではないんです。収納力がアップするし、見栄えもいいという、ただそれだけの理由でした。

今回の地震で、つくりつけの家具*と後置きの家具がこんなに違うんだということを実感しました。ほんとうに、たまたまでしたが、ラッキーでした。

*つくりつけの家具とは、取り外しのできない、壁などと一体化して作られた家具のこと。



顔みしりだと、「助けて」と言いやすい

福岡市 50代 男性

「タンスとかが倒れて、1人じゃ起こせないから手伝ってください」という電話があったものですから、地震直後、市の対策本部が立ち上がる前に、ボランティアの仲間や民生委員*さんらと、リヤカーを出して、ひとり暮らしのお年寄りのところを回りました。

僕らがリヤカーを引っぱって行くと、案外すぐに家の中に入れてもらえました。

やっぱり、ふだんから顔見知りになっておくと、「してちょうだい」という言葉が言いやすいのかなと思います。

* 民生委員とは、社会奉仕の精神を持ち、常に住民の立場になって相談に応じるなど、社会福祉の増進に努めることを任務として、市町村の区域に配置されている民間の人です。また、民生委員は児童委員を兼ねています。



一日前プロジェクト みんなでやってみよう!

----- 簡単な手順を紹介します -----

まず、過去の自然災害(地震、水害)の中から対象を選ぶ

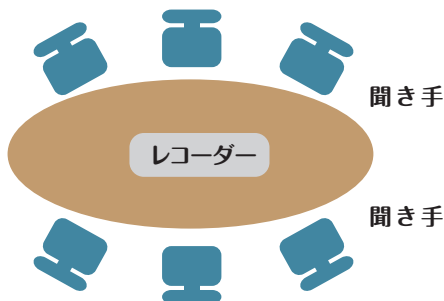
その災害の被災経験者や災害対応経験者に声をかける

みんなが集う場所と時間を設定する

※所要時間は2時間

なごやかな雰囲気の中で、当時を思い出しながら、体験したり感じたことを話し合ってもらおう

※話し手は、2~4人が適当



「教訓」や「知恵」につながる部分を拾い出し、タイトルをつける

テープ起しなどを基に、拾い出した部分を物語にする

※物語は、300~500字程度で、できるだけ切り口を残して編集
※物語の情景をあらわすイラストや写真等を添えると効果的

作成した「物語」を地域や職場のみんなに読んでもらう

気づき

共感

反省

「一日前プロジェクト」とは、地震や水害などの自然災害で被災した方や災害対応の経験をもつみなさまにお集りいただいて、

- 被災前後の行動
- 体験を通じて上手くいったと思うこと、失敗したと思うこと
- もう一度災害が発生したならば、次はどのように行動したいか
- そのために日頃から何を準備しておけばよかったか

といった本音の話をお聞かせいただき、これらの話から導き出されるさまざまな教訓や身につまされる体験をショートストーリー(エピソード)に取りまとめるという活動です。

こうして取りまとめたエピソードを広く活用・普及させることで、地域のコミュニティや国民一人ひとりに、防災・減災への関心や意識を高めていただくことを目的としています。

ここで紹介する物語は、ほんの一部です。一日前プロジェクトから生まれた物語は、内閣府の「災害被害を軽減する国民運動のページ」<https://www.bousai.go.jp/kyoiku/keigen/ichinitimae/index.html>に掲載されています。ぜひ、アクセスしてみてください!きっと、あなたの心を動かす物語が見つかるはずです。

■一日前プロジェクトの物語・イラストは、非営利の目的であれば、広報誌やパンフレットなどで自由にお使いいただけます。「災害被害を軽減する国民運動のページ」(<https://www.bousai.go.jp/kyoiku/keigen/>)からダウンロードしてください。



発行

内閣府(防災担当)

〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1(中央合同庁舎8号館)

TEL 03-5253-2111 URL <https://www.bousai.go.jp>

